

# 平成22年度 下甌・鹿島地域 まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 平成22年11月15日（月）14：30～16：30  
ところ 鹿島公民館  
出席者 市：市長  
企画政策部長，農林水産部長，商工政策部長，観光交流部長，  
建設部長，教育部長，下甌支所長，鹿島支所長，コミュニティ課長，  
広報室長，広聴広報G長，外  
地域：各地区コミュニティ協議会長をはじめとする  
地区住民74名  
(合計) 100名の参加

## 各地区コミュニティ協議会の今後の構想について

### 1 鹿島地区コミュニティ協議会

鹿島地域においては、平成21年6月、恐竜の化石が発見されたことの紹介発表で県内外に広く周知されるなど、地域おこしの起爆剤として大きく期待されている。今後、本格的な化石発掘調査・標本化石の展示・充実など、熊本大学と地域が一体となって連携しながら協力・支援する必要がある。

また、ウミネコまつりや鹿の子百合まつり(鹿の子百合ツアー)など地域資源を活用した感動体験プログラムを通して観光客の誘致に積極的に取り組んでいる。自生地の鹿の子百合の増殖を目指す鹿の子百合の会、段々畑の景観を取り戻すための段々畑復活事業管理組合や下甌西山地区と連携しながらビーダナの復活に取り組んでいるグループなど、このような団体・グループの自主的な活動が今後、特産品の生産や体験型の観光客の誘致につながることを期待される。

このほか、安全で安心な暮らしを進めるために、「地域の安全は地域で守る」という基本方針の下、「交通死亡事故ゼロ22,540日の達成記録の更新」、「道中禁煙」、7月に達成した「建物無火災3,000日達成記録」、「黄色の旗によるひとり暮らし高齢者の見守り実践活動」、「毎年行っている防災訓練」など伝統的・先進的な取り組みを各関係機関団体が協力して行っている。今後、特に津波災害における高台の避難場所の確保など行政と意見交換をしながら進めていければと考えている。

環境面では、藺牟田墓地において墓地内に管理されていない不用な墓石がごろごろしていることから高齢者の墓参りに怪我でもされたら大変な現状であり、どうしても解決すべき地域課題が山積みされている。

教育面では、小・中学校の地元児童生徒数の減少に伴う小・中学校の存続が大きな課題であるが、ウミネコ留学制度の拡充を図っていただき、児童生徒数の確保に向けて地域一体となって支援をしていきたいと考えている。明るい情報として鹿島地域では若者の定住によって乳幼児数が増えているので、小学校の存続には特段の配慮をお願いしたい。

地域おこしをはじめ各種の課題解決を進めるにあたっては、どうしても核となる活動資金が必要である。この資金を有効に活用しながら関係機関団体を育成することによって強いては数倍・10数倍の経済効果を生み出し、また、若者の定住を促進し、鹿島地域の活性化に努めたいので、資金の御支援・御配慮を賜りますようよろしくお願いしたい。

このことにつきましては、鹿島地区コミュニティ協議会の提出議題としているので、よろしくお願いしたい。

## 2 手打地区コミュニティ協議会

まず、地域振興計画に基づいていろいろなことを進めているわけであるが、「自然の恵みと思いやりの心に満ちた活力ある地域づくり」ということを基本理念として、この計画を進めているところである。市長さんの挨拶にもあったとおり少子高齢化ということで、我々の地区でも高齢化が進んでいる。多い時は4千人近くいた人口が今は800人を切っている。そのようなことで地域の活力も衰退しつつあるが、身の丈にあった活動、我々でもできるイベントを中心として地域の活性化を図っている。年間8回ぐらいイベントを実施するわけであるが、手打夏祭りというのが最大のイベントであり、花火の打ち上げなども行う。今年で11年目になり、これに合わせての帰省客も増えている。そういうわけで、第1にイベントによる地域おこしということを考えている。

それから伝統芸能・スポーツ振興である。手打地区には3つの自治会があり、それぞれに芸能保存会を持っている。昨年、本町自治会の盆踊りというのが26年ぶりに復活した。それから一昨年は麓自治会の武士踊りというのが20年ぶりに復活した。港自治会のヤンハ踊りについては、すでに復活し、活躍している。このように復活させ伝承していかなければならない。そこで郷土芸能の復活祭というものを市の御指導を受けながらできないだろうかと考えている。まず、手打地区で立ち上げ、それに基づきほかの地域の参加があれば一緒になって復活芸能祭という形でやれないかと考えているところである。

それと郷土料理である。これを活かした地域振興を行っており、今ツアーで来られる観光客も少しずつ増えているようである。手打地区は昼食をとる場所があまり無いため、コミュニティセンターを使って、現在、生活研究グループに依頼して食事を提供している。これ以外にも餅つきとか味噌作りとか色々な事業をやっている

ので、手が回らないということもある。今後はコミュニティ協議会で女性部のようなものをつくって提供できないかと思っているが、食事を出す上での食品衛生上必要な設備の整備というのが課題ではないかと思っている。後もって話があると思うが、こういった設備整備を行政の方にもお願いをしているところである。

最後に、ホームページを活用した外部への情報発信である。先ほど市長さんも地域格差の解消ということで通信網の整備について話されたが、光ケーブルが通じ、ADSLが使えるようになったので、こういうことができたのではないかなと思う。ちょうど2年目になるわけであるが、出張者に対して手打の状況を見てもらおうというのが元々の考え方であった。ところがアクセス者が増え、現在12,000件を超えている。今年は市の活性化事業により補助を受け、ライブカメラを設置した。手打湾を24時間リアルタイムで見られるようにしてある。アメリカのように見えたという情報もあった。インターネットについては素人であるが、支所の職員の御指導を受けながらこれを有効に活用していけば、身近な地域おこしにつながっていくのではないかと思っているところである。

色々あったが、3つの自治会と連絡を取り合いながら、行政の指導もいただきながら、何とか地域の活性化のために頑張りたいと思う。

### 3 子岳地区コミュニティ協議会

子岳地区は、平成16年の合併時には、116世帯、人口が228人であった。現在は、104世帯、人口174人となり、年々人口が減少する傾向である。Uターンや定年退職後に帰郷する人もいらっしゃるが、人口減少の歯止めとなっていないのが現状である。特に青少年の減少が著しく、高齢化が進み、過疎化の波に逆らえない状況で、ゴールド集落となるのも時間の問題である。人口が減少し、しかも高齢化・過疎化が著しい状況の中で、子岳地区の活性化をいかにして高めたらいいか苦慮しているところである。

子岳地区では、田ノ浦から、人が約9千年前から住み着いたと思われる縄文土器が出土していて、歴史の古い地区である。戦中戦後の食糧難や耕地面積が少ないなど、苦しい生活の中でも、先人が営々と築いて来られた、わが郷土を衰退させるわけにはいかない。

中学校も海陽中学校に統合され、地区から無くなった。小学生も2年生1人、3年生1人、計2人となり、手打小学校への統合の計画もある。数年後には学校も無くなるのが考えられる。

人口の減少、高齢化に逆らえない現状は、現状として受け止め、今後は、高齢者でも安心して住める環境の保全と改善・向上に努め、地区全体が一つとなって協力し合えるような、全員が参加できる地域の交流活動や各種事業などを計画することで、地域の活性化が図れるのではないかと思う。また、青少年確保のため、伝統芸

能の推進等、特色ある地域づくり、健全な青少年の育成を図るとともに、若い人が働ける場所の確保等で、子岳地区への定住・帰郷を促進していかなければならない。

薩摩川内市になり、「宝の島“甕島”」として、観光に力を入れることがいわれている。私たちの地区は、美しい自然に囲まれ、水平線に沈む夕日、道々には市花である鹿の子百合が咲き、道路途中にある休憩所・地区内の公園施設などでゆっくりと過ごすことができる。なお、海岸沿いに新しい観光用の遊歩道を設置することで、風光明媚な景観が観賞できるので、その実現に力を入れたい。

また、平成9年からの片野浦漁港漁村整備事業により、片野浦港の整備、集落道の新設・拡幅・改良、下水道排水施設、緑地広場施設、防犯安全施設等が整備され、住みよい環境となっている。海亀の産卵が見られるなど、たくさんの良い面がある。春には山々の山菜が豊かに生え、魚や貝など海の幸も豊富であり、観光客を満足させるような地区にしたいと考えている。

しかし、①一方では、冬の季節風が台風並みに強く、地区内には小さな商店があるだけで、生鮮品などの購入には他地区まで買い物に行かなければならない。②病院がなく巡回診療が1週間に1度来るだけで、急病の時など対応に時間がかかる。③フェリー便に対するバスの運行がなく自家用車などがなく交通に不便である。④年々高齢化が進み、青壮年層が減少することで行事等の活動に高齢者の負担が大きく、学校児童数の確保も難しくなっている等の悩みもある。

地区を活性化するにも、高齢化が進んでいるので、子岳地区コミュニティ協議会や自治会だけでは力不足であり、なかなかいい智恵・具体案も出ない。市当局の助言・協力が不可欠であるので、なにとぞ子岳地区の発展に御助力をお願いし、現状と課題の説明としたい。

#### 4 西山地区コミュニティ協議会

西山地区とはよくいわれる瀬々野浦のことである。人口が180名、世帯数が119戸、自治会数は2つあるが、そのうちの1つ、上自治会はゴールド集落に指定されている。乳幼児が3名、小学生が5名、中学生が3名の小さな集落である。生徒数の減少はあるが、今年の秋に西山小学校創立130周年記念式典を行った。先ほど市長さんも言われましたように、関西からも多くの卒業生が足を運んでいただいた。

そこで今年度、地区コミュニティ活性化補助金を活用して行った西山地区の河川活性化事業について少しお話をしたい。この事業は市比野にあります野下地区コミュニティ協議会との連携で実施した。野下地区で竹炭を焼いているということを知り、電話やファクスでやり取りをした。市民運動会の翌日に4名のコミュニティ会員で野下地区に伺い、実際に10月17日から3日間、野下地区の井川会長さんともう一人技術屋の方に来ていただき、ドラム缶2個使い、竹炭の焼き方を教えていただいた。実際に焼いてみたが、80%ぐらい成功したと考えている。焼いた竹炭

を川に浸ける作業がまだ残っているが、この河川活性化事業を通して野下地区コミュニティ協議会と炭だけでなく色々な交流を行った。例えば、野下小学校の統廃の話も話題となった。この炭焼きのために当初予想していなかった会員の方にも協議に参加いただき、良い地域の活性化になった。今年中にもう一度実施できればと思っている。ただ、ドラム缶の窯では副産物である木酢が採れないことが残念なので、そのうち本格的な窯を造って西山地区の特産品にしたいと考えている。

それから2月から始まるきやんせ博覧会に向けて、西山地区コミュニティ協議会でも色々な地域おこしをしようということにしているが、先ほど市長さんも言われたとおり、断崖絶壁をどうにか利用できないかと考えている。この断崖の金山海岸だとか内川内の滝だとか、歴史・伝統で語り継がれる大内浦の海岸などを巡る1時間ぐらいの遊覧コースを設定し、許可を持つ3隻の船を使って、有効に活用できないかと考えている。また海に出れない場合なども想定した地区観光も視野に入れてプランを思考している。

それから、県の指定伝統工芸品のビーダナシを西山地区でも行えるよう、先日提案公募型補助金に応募したところである。先ほど鹿島地区からも出たように、ビーダナシは薩摩川内市の貴重な財産であると考えているので、鹿島地区を含めた地区コミ同士で協力しながら、行うことができれば大変よいのではないかと考えている。

そのほか後で話にも出ると思うが、温泉太郎が廃止になって、その建屋が残っているが、地域に伝わる伝統芸能、郷土料理を守る意味からも、これを改良していただき何かに使えないものかと考えている。

今後の西山地区は、高齢化が進み、今以上に大変厳しいものになると予想される。そこで協議会活動を続けるためにも若い人の雇用促進、定住などの課題を解決できるように考えながら、お年寄りの住みやすい地域づくり、そして環境づくり、子どもたちへの朝夕の声掛け運動、あいさつ運動などの原点を忘れず、今後新しい発展が望める協議会活動に、地域住民全力で力を合わせていきたいと思う。

## 5 内川内コミュニティ協議会

私のコミュニティは薩摩川内市で一番小さいコミュニティである。現在の人口は41名で、風前のともし火であるが、我々はこれをどうするかということを考えている。

まず、地域振興計画に挙げてある項目を基に活動を進めてまいりたい。1番目に地域づくり、2番目に自主防災活動、3番目に伝統芸能の保存活動などを挙げている。地域づくりといっても快適な環境づくりを目指しているが、これをどうするかということが問題であろうかと思う。

次に、環境美化の問題についてであるが、これらの活動もなかなか幅が広い。色々やっているが、幅が広く人数が少ない分、継続するのが難しいのも事実である。

自主防災活動については、消防と協力して自主防災組織の育成に力を入れて、災害時には住民の避難に協力し、対応できるよう活動を続けたい。

高齢化率90%、人口が減少する中で、難しい問題であるが、声掛け運動や健康体操などを行い、孤独な人たちをなくしていかなくてはならないと考えている。

次にお茶の件であるが、本庁から色々と配慮していただき、専門員の派遣など色々御指導をいただいた。今年は最高のお茶ができたことと皆喜んでいて、お礼を申し上げるとともに、これからもよろしくお願ひしたい。

## 6 長浜地区コミュニティ協議会

長浜地区コミュニティ協議会では、県の事業である花・緑豊かなまちづくり共同事業の管理団体としての指定を受け、現在、長浜緑地公園を回遊拠点として公園入口に花園を造り、プランターなど設置し、広く花植え等を行っている。また、この事業終了後も高齢者クラブや女性会の協力を得ながら、下甌の表玄関にふさわしい長浜緑地公園周辺の環境美化運動を継続的に進めていきたいと考えている。

次に、長浜港から山手を見上げれば、神社の森のちょうど右側に広大な丘があり、ここが長浜の城ノ田地区である。昭和40年頃までは、全体が田んぼや畑として耕作され、長浜で一番平らで、一番広い農地であった。しかし最近では、2～3名しか耕作する人がなく、荒れ放題になっている。旧下甌村時代からこの城ノ田開発が度々話題に上がってきたが、市町村合併により現在ではそのままの状態になっている。ふるさと長浜を離れて東京で生活する人が作成した(東京長浜会)機関誌で、「ふるさと長浜城ノ田地区の開発について」という記事を読んだ記憶があるが、このように住民の方々もこの城ノ田開発には、大変関心を持っており、時々話題になるようである。そう簡単に実現できる問題とは思っていないが、時間を掛けて地域の要望を集約して、住民の知恵をお借りして荒廃した里山を蘇らせ、まちづくりにチャレンジしていく構想を持っている。最近テレビ等でよく紹介されている家庭菜園として農地を整備し、自衛隊の若い人たちや地域の方々に野菜づくりを楽しんでもらうというのも一つの方法ではないかと思っている。城ノ田開発といっても大変大きな広い問題がある。平地の少ない長浜地区にとってこの城ノ田開発は長浜地区発展のためにも重要な課題だと思っている。

地域づくりはすぐ目に見えた成果が上がるものばかりではない。焦らず着実に一步一步の積み重ねが周囲の住民を巻き込み、やがて大きな輪となって広がっていくと思う。今後どうしても長浜地区発展のために城ノ田開発を進めていきたいと、このような構想を持っている。以上よろしくお願ひしたい。

## 7 青瀬地区コミュニティ協議会

皆さんご存知と思うが、青瀬地区は下甌町の東海岸の中部に位置していて、甌島でも有数の沿岸漁業を誇る水域の瀬尾海岸の平地を中心に集落を形成している。漁港は青瀬漁港と瀬尾漁港の2港あるが、沿岸漁業の拠点として瀬尾漁港が整備されている。ここには1年を通して古く長い歴史を持つ定置網が敷かれており、近くの瀬尾観音三滝公園の宿泊施設等を組み合わせて体験観光ができないものか、今検討している。

昭和30年代から40年代における高度経済成長により、関西への人口流出が激しく、その結果高齢化社会を生み出した。現在の人口は235人、134世帯で、うち60歳以上は89人と地区の39.87%を占めている。すでに小学校の閉校問題や、高齢化による道路・河川・海岸の愛護活動が困難になるなど集落機能の維持・存続が危ぶまれ、生活扶助機能の低下、空き家の増加、山林の荒廃、耕作放棄地の増加、買い物等の日常生活や地域医療に対する不安等、地区民の暮らしにも直結する課題が生じてきつつある。一方、寝たきりや認知症など介護が必要となった高齢者や一人暮らしの高齢者の多くは、住み慣れた地域で暮らすことを望んでいる。訪問給食サービス、在宅サービス、通所サービスなどの保健・医療・福祉サービスの充実や地域住民等の協力を得て可能な限り、地域全体で支えていくシステムを確立することが必要であると思う。

これからのまちづくりは、地域らしさを重視して展開していくことが必要であり、小規模校には大きな学校にはないいいところがある。また、高齢者の町では高齢者を敬うという人間本来の姿を持つまちづくりができると思う。ようするに地域らしさ、高齢者が安心して暮らしていける、また、高齢者を支えるまちづくりを目指して取り組みたいと思う。

最後に、青瀬地区の議題として、高齢者と子供が遊べる帽子山自然公園整備事業を提案したが、御検討の方をよろしくお願ひしたい。

#### 議題1 (鹿島地区コミュニティ協議会)

##### 地域活動資金(長期)の創設について

鹿島地域では、恐竜の化石発見による化石発掘体験ツアー、ウミネコまつり、鹿の子百合まつりツアーなど地域の観光資源を生かした感動体験プログラムなど観光客の誘致に積極的に取り組んでいる。

また、段々畑の復活やビーダナシの復活をはじめ、関係団体の活動が今後、特産品の生産や体験型の観光客の誘致につながることを期待される。

そこで地域おこしをはじめ、地域の独特の課題を解決するためには、どうしても核

となる資金が必要である。この資金を有効に活用しながら活動することによって強いでは数倍・10数倍の経済の波及効果を生み出し、また、若者の定住を促進することにつながると思われるので、地域活性化のための地域振興基金の創設をよろしく願いたい。

#### 【企画政策部長】

この議題のとおり、地区コミあるいは市民グループ、ボランティア団体の皆さま方の活動は、新しい公共都市の担い手として、人々が支え合いそして活気のある社会づくりのために、大変重要なものと考えている。こうした市民団体の活動を定着させ、そして効果がある地域活性化につなげていくためには、一定の期間は資金面など行政の方からの後押しが必要かと考えている。このため、本市においては、先ほど会長さんからご紹介があったが、地区コミュニティ活性化補助金あるいは提案公募型補助金など、従来の行政依存型ではない、すなわち地域の方で企画・立案していただき、地域自らで実施していただくといった補助制度を設け、それぞれの団体で活用いただいている。

ちなみに今回この議題1を提案いただいた鹿島地区コミにおかれては、旧鹿島老人憩いの家を譲り受けておられる。この施設を核として、地区コミでは先ほどの地区コミュニティ活性化事業補助金を活用され、布団・毛布といった寝具の購入あるいは施設内に避難誘導灯・防火カーテンを設置するなど施設内の設備を充実し、他の地区コミとの交流拠点として、あるいは宿泊施設として活用し、交流活動を充実させていただいていると承知している。その他、この地区コミュニティ活性化事業補助金・提案公募型補助金の活用状況については、先ほど会長さんの方から何名か御紹介があった。

今回のこの議題・提案については、鹿島地区に限らずそれぞれの地域活動を支援するに当たり、新たな基金の創設すなわち、そのための貯金を新たにつくってほしいというふうに乗っている。現在、市役所の方で管理している特定目的基金と申し上げますのが全部で22ある。現在この22の基金全体の見直し、すなわち再編あるいは整理について検討に着手したところである。今回のこの議題に関係する市民のいろいろな活動を支援するための基金としては、コミュニティ基金、アメニティ基金といったものがあるが、それぞれの基金が特定の分野に用途が制限されるといった難がある。このため今年度の基金の全体見直しの中で、この基金を一元化、一本化して市民の方々の幅広いご要望・ニーズに対応できないか、現在検討しているところである。以上全市的なこの市民活動を支援するための基金については検討中ではあるが、この基金を設置するしないにかかわらず、先ほど申し上げた提案公募型補助金、地区コミュニティ活性化事業補助金、その他既存の補助金を継続し、場合によっては必要な改善・拡充を行いながら、地域の皆さんの活動を引き続き支えて参りたい。

なお、今説明申し上げたのは、鹿の子百合あるいはビーダナシといったソフト事業についての活動のための基金であり、例えば道路をつくったり、施設をつくったりというハード事業のための基金ではないことをお断りしたい。これらについては、それぞれの政策の中で個別に



協議し、対応させていただきたい。

## 議題2 (手打地区コミュニティ協議会) 農林産物加工センターの有効活用について

農林産物加工センターは、昭和60年に地域の農林業の振興と生活環境の改善を図るとともに地域住民の連帯意識を高めることを目的に建設された施設(2F)である。

1階部分が調理施設、農産物集荷施設等となりそれなりの施設活用はなされている。特に調理施設については、生活研究グループの皆さんにより餅つきやチマキ・いなかみそ作り等地域に密着した活動を行っている。

2階部分については、事務室・資料室・研修施設等となっているが、現在ほとんど有効に利用されていない状況である。

この2階部分を「郷土料理研究施設」として改造していただければ、地元で自生する山菜(ツワブキ等)や地元農産物を利活用した料理研究をさらに進められるとともに、改造することにより昼食施設としても活用出来ると思われる。当施設の2階部分は、手打湾が一望できる景観でもあり、最近ツアーで訪れる観光客への田舎料理の提供も出来、地域の活性化が図られるとともに地域の観光施設の拠点となりうる。

この施設の改造については、第2期地区振興計画にも掲載し、また市が進める甌島体験プログラムの推進にも大いに役立つ施設になるものと思料される。

### 【農林水産部長】

今回の4月からの口蹄疫については、甌島においても、ご協力いただき感謝している。さつま町の徳重人口受精所というところに種牛がいる。非常に有名な種牛で、その種牛の避難所が、手打地区の皆さんのご協力で土地を提供いただいて設けることができ、今回このことを含めて手打人口受精所の種も甌島に積極的に入れたいとおっしゃっていただいている。非常に苦しい時期を乗り越えた結果が、こういう新しい成果も生んだということをお知らせさせていただきたい。

こういう手打地区からは、農林産物加工センターを昼食施設として、あるいは調理施設として、あるいは食堂的なものとして整備できないかという御提案をいただいた。部としてあるいは支所とともに現地を見させていただき、回答をつくったのでお知らせしたい。

現在、農林産物加工センターは、観光客のツアーで年10回程度利用されており、生活研究グループの皆さんが、昼食を提供する際に郷土料理をつくるということで利用されている。近くにコミュニティセンターがあるので、そこに運んで食べていただいているという現状を何とかできないかということで調査した。

農林産物加工センターを昼食提供する施設として造り変えるには、2階だけの改造ではなくて、1階も食品衛生上、適当な施設として、きれいに整理する必要がある。ところが、1階は農林水産物を集めたり、あるいは出荷したりするといった施設でもあるということから、若干1階の部屋の清掃とか整備が苦しいと思われる。それと階段が外階段になっており、若干狭いということ。あるいは駐車場が無いということも非常に大きな課題であると思っているところである。併せて農林産物加工センターは、設置の目的というのが、農産物の加工または研修等に、ある程度用途を限定された補助で造られており、改修するにして、目的を外して造り変えることができないというのが、非常に大きな課題であった。よって、支所の方には、誰が管理をするのか、どのように造り変えるのか、どこに車を止めて、案内するのかということも含めて、詳細に計画を詰めるよう話をしていたところである。ところが、地区コミュニティセンターを訪ねてみると、エレベーターが設置されており、2階にはバリアフリーで行けるということ。それと駐車場があつたり、若干海岸側に道路の広い部分があるので、大きな車も止められると思った。そこで地区コミュニティセンターの調理施設を見てみると、ちょっとした台所を大きくしたような感じになっている。ところが、ごく最近整備されたコミュニティセンターは、調理台が3台とか4台とか並んでおり、きっちりと料理研修ができたり、たくさんの方の料理をつくることのできる施設になっている。この地区コミュニティセンターも若干改造をしたり、工夫をすると、そういう調理台が何台か置けるのではないかとということもあり、地元の方には、ぜひ、加工センターだけではなくて、食事を提供する上で地区コミュニティセンターを改造すれば、何とか上手く使えるのではないかと、普段コミュニティセンターで反省会とか色々な行事をするときにも使えるのではないかと御提案したい。このように支所とともに、どうしたらいいのか詳細に検討していただければ私たちも支援ができると思うので、よろしくお願ひしたい。

#### 意見

詳細に調査していただき有り難く思っている。加工センターではなくてコミュニティセンターの調理室の方が改造しやすいのではないかとのお話であるが、それでも結構だと思う。そこまで考えが浮かばなかったもので、そのようなことであれば、これを議題に上げてお願ひするべきであった。ぜひ、そのように私どもも検討するので、よろしくお願ひしたい。

#### 議題3 (子岳地区コミュニティ協議会)

観光用遊歩道並びに展望所の設置を

子岳地区（片野浦海岸線）は、鹿の子百合や野カンゾウ、野菊、おこし（芝に似た草）の自生する景勝地である。しかしながら現在は、インフラ整備がされておらず、観光客も下から見上げるか、道なき道を登らざるしかない状況であり、景勝地でありながら観光名所になっていない。

この景勝地を生かし、観光客を呼び込むために、片野浦キャンプ場からミッチリ海岸まで、「観光用遊歩道並びに展望所」を整備してもらいたい。

施設整備する事により、片野浦湾を望むすばらしい景観を満喫できようになり、多くの観光客等が来訪することで、住民の地域に対する意識の高揚、地区の活性化が図られる。

#### 【観光交流部長】

今回の議題をいただき、先日現地を拝見させていただいた。夏のシーズンにはお邪魔したことがないが、片野浦漁港のそばにキャンプ場があり、ご指摘の鹿の子百合、それから野カンゾウ等などが咲き誇れば、非常に景色の良い所ではないかと思った次第である。

今回ご要望いただいたのは、遊歩道と展望所の整備ということであった。その遊歩道について支所も含めて色々考えてみたが、一番思ったのはこの時期になり、季節風の関係だと伺ったが、花や木等が無くて非常に背の丈の低い草の植生が中心であったということ。それから岩がところどころ露出しており、場所によっては、治山ダムがあったり、それから岩壁の崩落の防止のための防護柵等がところどころにしてある状況であった。ここに遊歩道ということになると、観光客の方々の安全性の面を考えたときに非常に心配した。この部分につきましてはハードルが高いのではないかというのが率直な感想である。ただ、先ほども申し上げたが、キャンプ場のところに展望所があり、そこからの景観が非常に良かった。まずは、キャンプ場とこの展望所を上手く活かして活用し、観光客を呼ぶことができないのか、先ほど副会長さんの話にもあったが、観光客を呼びたいということであったので、市としても何とかこれを活用して上手く観光コースに設定することができないか、勉強させていただきたい。

#### 意見

私は漁師をしているが、今は船からしか見ることができない景色がある。昔は人が通るような道路があって、子どもたちがよくそこを歩いて行っていたなだらかな丘がある。西山地区ナポレオン岩も、西山地区から見るともいいが、そこから見るナポレオン岩は景観が違う。それとあの東尋坊にも勝るすごい絶壁もある。また、そこには鹿の子百合や鹿の子百合が全盛期を終える頃に咲く野カンゾウが自生しているが、そういった漁師しか見れないところに、車道路じゃなくていいので遊歩道を何とか設置できないか検討していただきたい。そして今は時期が過ぎているから、一回その時

期に船で再確認していただきたいというのが私どもの意見である。

#### 【観光交流部長】

昔、子どもの方が通れるような道路があったということであるが、そこまで確認はしていないので、そこは再確認させていただきたいと思う。繰り返しにはなるが、おそらくこの道は港から海に向かって右手の方にずっと伸びている断崖の海岸沿いの道だと思う。

#### 説明

右側のぐるっと曲がったところは、なだらかな子どもでも遊べるような場所で、野カンゾウや鹿の子百合が自生している。

#### 【観光交流部長】

対岸から拝見したが、まだ場所が私の中で一致していないので、そこに行くまでに、治山ダムとか砂防ダムとかがあったと思う。その部分を上手く避けられて安全が確保できて通れるのであれば、まだ検討の余地はあると思う。先ほど市長も申し上げたが、確かに素晴らしい断崖であった。どちらかというとなんか安全性をある程度考慮するのであれば、例えば海から見るようなコースを設定して、来年4月に就航予定の新しい観光船「かのこ」というのを造っているのだから、それを上手く活用して、鹿の子百合ですとか野カンゾウを鑑賞するようなことはできないか、そういう部分も含めてちょっと勉強させていただければと思う。

#### 意見

海から見るコースは大変素晴らしい。先ほど片野浦の方が言われたように、下からしか見えないから分からないと思う。キャンプ場の上にテントを張る施設がある。その上の方からずっと斜めに行ったら、全然危険ではない。さっき言ったダムのところに、歩いて行けそうなコースがある。村の時代も全く観光コースとかそういったものをつくっていないから、地元の下甌の方も分からないと思う。いつか機会があったら、部長さんに地元の方と一緒に見ていただけないだろうか。よろしくお願ひしたい。

#### 【観光交流部長】

ぜひ、拝見したいと思う。

#### 議題4 (西山地区コミュニティ協議会)

##### 体験型交流施設整備について

現在未利用の旧温泉太郎(浴場)施設を改修して、瀬々野浦の良さを生かした観光拠点となる「体験型交流施設」に整備してもらいたい。

この施設から、観光名所の1つである『ナポレオン岩(沖瀬)』が見え、また、昔から芙蓉の皮から繊維をとり織り込んだ「ピーダナシ(芙蓉織)」があり、この芙蓉布を飾ったり、織機をつかった体験ができるような施設並びに観光客の休憩の場としたい。将来的には、瀬々野浦地区の郷土料理等が出せるようにしたいと考えている。

#### 【観光交流部長】

旧温泉太郎については、旧下甌村の時代に各地区にできた温泉施設・浴場施設で、それを活用して観光客を呼び込みたいというお話であった。こちらの方も先日拝見した。聞いたところによると、昭和38年に建設をされており、50年近くが経過しているということで、非常に古い施設であった。ドアのノブの取手もとれており、中に入らずに、外から中を拝見したが、非常に腐食・老朽化が激しくて、支所の職員にも相談をしたが、改修して、手を入れるような形で活用するというのが、なかなか難しいと考えられた。先ほども農林水産部長が手打地区のコミュニティ協議会の議題について答えたが、こちらにも隣にコミュニティセンターがあったので、こちらの方もコミュニティセンターの活用も含めて、いい活用ができないか支所も含めてコミュニティ協議会の皆様方と相談させていただけたらと思う。

#### 議題5 (内川内地区コミュニティ協議会)

##### 観光と農業振興をするための道路整備

内川内地区には、素晴らしい景観の一番滝があるが、見えるスポットまでの道路がないので、高岩神社まで車が入れる道路と駐車場を整備していただければ、内川内の観光の名所になると思う。途中で畑も有り、生活道路として、農業振興にも大いに役立つと考える。

また、神社から海岸までの遊歩道と途中で展望所を整備していただければ、海岸を利用した観光もはかれ、真砂石の美しい海岸が生きてくる。

#### 【建設部長】

下甌島の西側の海岸線については、内川内地区を含めてであるが、どこをとっても素晴らしい景勝地だというふうに考えている。先ほど市長の冒頭のあいさつの中でもあったが、まずは海から眺望したり、見せる観光というのを提供したいというふうに

考えている。

また、道路整備ということについて、若干話をさせていただくと、この内川内集落については、現時点において生活道路である集落道路の整備を優先している状況である。今回、高岩神社までの道路整備と神社から海岸まで下りる遊歩道整備ということでご要望があったが、西海岸独特の急傾斜地という現地の状況から工事中あるいは施工後の安全性等を考えたときに、非常に厳しいというふうに考えているところであるので、ご理解いただきたい。

#### 議題6 (長浜地区コミュニティ協議会)

##### 長浜城ノ田地区への道路の整備について

長浜城ノ田地区は、平らな畑の面積も広く、長浜では一番の農地であるが、車の進入ができないこともあって、農耕者が減少し荒地が多くなっているため、城ノ田地区への道路の整備をお願いしたい。

道路の整備により、荒廃した農地にはいろいろなものが作付されるようになり、農業の振興を図るとともに、市道薬師線と連結させて生活道路としても住民の利便性を向上したい。

農免農道長浜地区から市道薬師線までの区間の道路整備をお願いします。

#### 【農林水産部長】

現地に登らせていただいた。長浜湾が一望でき、聞くところでは2ヘクタールを超える面積があるということで、非常に広い農地が広がっていた。私も合併以降、甕島のさまざまな箇所を訪れているが、あの広さにはびっくりした。耕作放棄地にはなっているが、耕作されたりすると非常に有効な場所なのかなと思ったところである。

現在、現地の上に通っている農免農道を市道薬師線につなぐということに関しては、市道へのつなぎをする部分に大きな谷がえぐれて入っており、そこに道路を通すには、大きく迂回したり、あるいは橋を架けたりする必要があり、非常に工法的に難しい部分があるというふうに感じたところである。従って、農道を市道につなぐこと自体は、工事の問題も含めて大きな課題があり、非常に難しいと思う。

ただ、城ノ田地区の2ヘクタールを超える農地を利用していくために、農道を入れることは非常に可能性が高いと思った。私たちが調査に行ったときにも、長浜の幼稚園の子供たちがお母さんに手を引かれながら、サツマイモ畑に収穫に行っており、きっと喜びながらイモを掘るといった情景が浮かんだ。先ほど会長さんが言われたように、単純に農業を営むための農地ということではなくて、景観、農作業体験あるいは

生活の中に農作業を取り入れての健康づくりといった面から、その2町歩の大きな農地をどういうふうに利用するかという計画をつくっていただければ、農作業をする上で便利な農道を入れるということであれば、私たちの方も真ん中に農道を入れたり、あるいは脇に支線を入れるというような協力ができるのではないかと思ったところである。また、現地の上には農道が通っており、私たちの農道を入れる作業としても、そこを利用するという面でいけば、そんなに苦勞することではないと思う。ぜひ、地権者の皆さんと農地利用について、利用の仕方や、あるいはみんなで地域を活性化させる道具として使えるようにご検討いただければありがたいと思う。ぜひ、協力させていただきたい。

#### 議題7 (青瀬地区コミュニティ協議会)

##### ボーシ山自然公園整備事業について

青瀬地区には、公営住宅の大川住宅の裏に海拔100m程のボーシ山があり、集落と青瀬湾を望むことができ、昔から子供らの遊び場としてよく利用されていた。この山の両脇には大川と御腕川が流れており、3年前より地区民で周辺に桜を植樹するなど公園づくりに取り組んでいるものの、地区コミュニティ協議会の事業としては限界がある。

そこで、山と川を利用し、子供らが川遊びできる昔ながらの自然な川にもどし、ホテルが飛び舞うようなホテルの里づくり「ボーシ山自然公園の整備」を要望したい。

#### 【建設部長】

このボーシ山地区につきましては、昔から子供さん方の遊び場として利用されたということもあり、地区の皆様方で周辺に桜の植栽などをされて公園づくりに取り組んでいらっしゃるということで、感謝している。地区の皆様方に対して敬意を表したい。

先ほど会長さんの方から念押しの要望もあったが、この青瀬地区については、現在、瀬尾観音三滝公園への道路整備を進めているところである。従って、瀬尾観音三滝公園の有効活用のための整備とPRに努めることとしたいというふうに考えている。そういったことから今回要望にありましたボーシ山自然公園の整備につきましては、現時点においては考えていないところであるので、ご理解いただきたい。

#### 意見

現時点でなくても、将来的には検討していただきたい。

#### 【建設部長】

今ほどお答えさせていただいたが、皆様方が一生懸命整備される中で、市として何かお手伝いできることがあれば、それについては、今後地元の皆様方と話し合いをさせていただきたい。そこで、こういうことができるとか、こういうのは難しいとか、そういう具体的な検討をさせていただきたいというふうに思っているのをお願いしたい。

#### 【市長】

それぞれ7地区から色々な意見があった。皆様方、回答を聞かれて「こら、なかなかしてくいやらんね」と思われたことと思うが、冒頭でもご説明したとおり、甕島を観光の地にということで観光産業を育てたいと思っている。北海道に礼文島・利尻島というのがあり、年間20万人から観光客が訪れるそうであるが、何も無くて、ただ花がものすごく綺麗だということで、どんどん観光客が増えている。甕島は飛行機が無いので、渡るには船しかないわけで、何十万人は別としても、やはり産業が育つような魅せる観光というのを力説しているところである。

私も東京の有楽町で甕島のパンフレットを配ったが、ほとんどの方が「どこにあるんですか?」、「何と読むんですか?」と言われる。「沖縄ですか?」と言われた人もいた。「甕島ですよ」ということで話をすると、「そんな島があるんですか」と言われた。つい先々週に福岡の博多で、やはり甕島のPRをした。ここは、やっぱり福岡だから、「甕島はどこ市にあるんですか」と言う方はいらっしゃったけれども、九州の中にあるということは理解していただいているようであった。また、羽田空港に着いてモノレールで浜松町に行けば、このモノレールの全車両に甕島のポスターを貼ってある。そして今博多駅が改装されているが、この駅の4つの柱に甕島の4枚のポスターを貼って宣伝している。そういうこともあって、これは時間をかけてしないとイケない。これだけで人を集めるというのは難しいから、5年ぐらいの計画で地道にやれば、口こみで、どんどん観光客が増えるのではないかと考えている。

したがって、今出されたご提案はたくさんの方々も観光にも理解を示していただいているものであり、人が集まり始めたら当然、道路を始め、様々なことを実施する必要があるの、そういう風になるようにみんなで力を合わせていただければ有り難い。

それと、今バスの料金が安い。それでなかなか利用できないという面もある。これは、最初の村営バスから合併し、薩摩川内市に引き継がれ、薩摩川内市営バスということで、公営企業のバスになっている。したがって、料金改定をしない限りは、料金を下げることができないわけである。それで、見直すことにより、これを平成24年度から、民営化しようと思っている。したがって、平成24年4月からは民営化ができれば、全部100円バスにしようというふうに考えている。どこからどこへ行っても100円ということで、皆様方の利便性を図った上で、「我が家におるより、200円出してどっか見に行こかい」とか、そういうことがお互いにできるようにしてみたいと思っているので、しばらく待っていただきたい。



さきほどの色々なご要望も今の現状では部長が申した通りであるが、将来は皆さん方からご提案あったことについては、観光客が増えるために整備をしていかなければならないと思っているのでご理解いただきたい。

#### その他意見・要望

##### 意見

一番気になっていた航路問題などについては、先ほど市長さんからのご説明があったので、質問は控えさせていただきたい。それ以外にお聞きしたい。

- 1 実は本土から観光で来られた人に聞いたことがあり、皆さんも見たことがあろうかと思うが、「下甑には地元車優先という看板があちこちにかかっている。これはどういうことか?」と聞かれた。ところが、私も地元に住んでいながらどういうことか分からなかった。多分工事の関係だと思うが、工事もしていない。これがどういう意味で立っているのか、お聞きしたい。
- 2 鹿児島から観光で、3人車で来られた。下甑には食堂が無いから、どっかで弁当を買って公園で食べた。ところが公園で食べるのはいいが、食べた後にペットボトルや弁当空を捨てる場所が無い。それで困って持って帰って来た。こういう話をよく私は聞かされる。
- 3 色々な空き施設があちこちに見受けられる。これを今後どのように使用されていくのか、どのように考えておられるのか。

#### 【建設部長】

- 1 地元車優先の看板について、通常、我々が工事をする場合にのみに使う看板というふうに考えている。ただ所によっては大きな会社等があって、そこが使った時に、地元の方々がなかなか通れないということで、地元車優先というのはあるが、今ほどおっしゃったのは工事で使ったものがまだ置いたままで残っているような感じがするので、それについては、調査をさせていただきたい。

#### 【企画政策部長】

- 2 島外から来られた観光客の方がお弁当を食べて、ごみを捨てる場所が公園内に無かったということで、観光客にとってはごみ箱があれば助かるという気持ちは分かる。全国的な傾向であるが、基本的には自分で出したごみは持ち帰るとというのが社会的なルールになりつつあるので、その点をご理解いただきたいと思う。ただ、大規模な公園とか施設であれば当然にして、ごみの散乱というのは防止しないといけないので、何らかの対応は必要だとは思いますが、基本的にはごみは持ち帰るという原

則があるかと思う。

意見

そうだとすれば、観光で来られた方は、食べたごみは自分で持って帰らないといけないということになるのか。

【企画政策部長】

そういったことになるが、施設にもよるが、例えば港の待合所にご相談して処分していただくとか、そういった対応も観光客に対しては必要かと思っている。具体的にどの場所だったか、また後ほど教えていただければ、協議させていただきたい。

意見

結論からすると、船で来た人が弁当を持って来て、下甌の公園で食べた後もまた持って帰る。こういうことなのか。観光客を呼ぼうとしているのに、そういうことでいいのかと非常に疑問に考えるが、この点は今後、改善するという考え方はないのか。

【企画政策部長】

ごみが散乱して地域環境が汚されるというのは決して良くないことであるで、個別の施設について具体的に教えていただいた上で、何らかの取り組みが必要だと考える。内部でまた検討させていただきたい。指定管理者に出している施設とかもあるので、その事業者とも協議をさせていただきたいと思う。

3 それと最後のご質問の空いた施設についてである。公共施設のことだと思うが、平成16年に薩摩川内市が誕生して、千三百数十の公共施設があった。これらについては、類似の施設等もあり、それぞれ廃止とかあるいは休止とか、色々な対応をしてきている。しかしながら、依然として施設が多い実態にある。従って、多数ある公共施設について、今後も利用していく施設なのか、あるいは利用実態から考えて今後は処分する施設の大きく2つに分かれると思う。

利用する財産については、これまでどおり住民サービス等もあるので、市が直営でやる方法、指定管理者に出す方法、あるいは民営化・譲渡するといった方法もあると思う。それから処分する財産については、極端な言い方をすると解体して廃止するという考え方もあるし、場合によっては民間の方が他の用途で利用したいという意向もあると思う。

市としては、必要ないが、色々な角度から見て必要と思われる方には、有償・無償で譲渡という形もある。数が多く、市の財政力の問題もあるので、4～5年かけて分類分けをして、処分する財産、利用する財産をきっちり整理していきたいと考

える。

意見

トンネル利用のことでお尋ねしたい。瀬尾から手打に抜けるトンネルは8割方完成なのか、完成までは至っていないと聞いている。がけ崩れがあった時に1度使われたことがある。そのときは12分ぐらいで通れたというお話を伺った。まだ内装工事とかが進んでいないので危ないからその後は使っていないと聞いている。たまたま、先日救急車を使うことになって、救急車を長浜にお願いした時、内川内まで来るのに20～25分かかって、それから救急車で走り出して、瀬尾の山の上を通過して手打まで着くのに1時間近くかかった。せめて救急車だけでも通れるような状態にならないかと、消防の方にも話をしたが、まだ、工事の途中なので危険であると言われた。1分を争う患者を運ぶためにせめて救急車だけでも通していただければ助かる人も出るのではないかなという気がしたから、お聞きしたい。

【建設部長】

手打・藺牟田線の上の方ががけ崩れがあった時に、ここは臨時的に通行させていただいた。まだ舗装も張っておらず玉石を敷いたような状況で、通行されるとき少し不便だったのではないかとこのように考えている。今ほどの救急車だけでも通れないかという話であったが、これについては、県道であるので、県の方と協議をさせていただくことになる。通常道路を通過して何か事故等があったときには、道路保険で対応するようなシステムになっている。ここはまだ供用していないので、その道路保険の適用ができないということで、何かあったときに、誰が責任とるかという話になってくる。ここが県としても、判断できないところだと思う。黙って通ればいいということになるかどうかは別として、実際道路管理者が許可したときに何かあったら、その責任問題が問われるから、おそらく言われたんだろうと思う。ただ、その件につきましては、県の方と話をさせていただきたい。先ほどの保険の話につきましては、念頭に入れて考えておいていただきたいと思う。

この道路につきましては、現在最後の仕上げをやっておりまして、来年3月までには供用すると県の方からお聞きしているところである。

意見

実は鹿の子百合のことについて、5年ほどイベントしたり、いろんな活動をしている。昨年は薩摩川内市の観光課の方と話し合い、ノボリをつくらうということになった。私は串木野に家があり、5～6回打ち合わせに行き、ようやく「鹿の子百合のふるさと」という旗を、薩摩川内市の優秀な方や甕島の事業をする方をお願いして集めた。その旗を6～9月まで立てた。許可されている期間がそれだけしかないという観光課の方

が言われたが、私としては、川内駅には風も吹かないし、来年の新幹線の間だけでも1年中立てたらどうかと思う。

それから、薩摩川内市のホテルのある社長さんがこうも言われた。「やるなら100～200本ぐらい立てなさい」。私としても、正直できないか中途半端な気持ちでいる。

それで、次にまた話があるが、甑島の宝とは。皆さん答えていただきたい。それは鹿の子百合だと思う。私は世界一の鹿の子百合をつくる夢をもっている。ベルリンから来たお客さんと偶然、待合所で会った時にこう言われた。「鹿の子百合の自生地ってどこですか？」後ほど、連れて行って見せてあげたら感激しておられた。ここに橋ができる旨説明したら、ここは、橋は造らなくても、もう最高の場所と言われた。世界の花であると思う。私は終戦後、海運業をしているせいか、鹿の子百合の輸出を夢見ている。それで、やればできると私は確信している。今、荒地になっているが、片野浦にしてもどこにしても、焼畑にすれば出てくる。私に言わせれば上甑には金貨にすれば何十億もの財宝が眠っている。これが活かさないものかと思って私はいつも考えている。

合併する前に私は商工会の会長をしていたから、その時に商工会の打ち合わせがあって、甑島で一番の宝は何かと聞いてみた。「鹿の子百合である。それに1億の投資したら20倍になる」と、私は断言している。何とか実現をお願いしたい。私としては、今合併して6年になり、観光交流部長とも話をしたが、これを甑島4地域で、鹿の子百合の会をつくり、もう少し大きい規模でセールスできないか。特に鹿島の鳥の巣灯台の景観も日本一といってもいい。セールスが足りない。会長さんに何とかやろうと話はしている。私としてはぜひ、この甑島の宝、これを観光と産業につないでいくのが、第1だと思っている。

水産業もだけど、私は海運業をしているせいか海のことも、はっきり分かる。10年前は魚がたくさんいたが、今は全く魚の影も無い。これは、漁業だけの問題ではなく、甑島の問題である。魚があつての甑島である。キビナゴにしても何にしても無制限な獲り方で、規制が乏しいような感じである。種子島の例を聞いたら、獲るものを決めて、網の目も決めて徹底しているが、甑島は徹底されていないような感じである。誰が考えても分かると思うが、大きくなる前に小さいのを獲って、獲れるときは獲り過ぎて、そういうのが私は本当に悲しい。

私は商工会にいるとき、山口県の川サギ漁を経験した。全然獲れなくて、そこは3年間休業した。今は平年並みに漁獲が上がっている。

だからやればできるということであるので、私は今年限り海運業をやめようと思う。友達にも言っているが、なんとか協力をもらって甑島の宝を産業につないでいく。先祖を無くするのか。先祖があつての自分たちではないかということ話をしている。世界一のものを作り上げていくのが一番大事ではないかと私は思う。

【観光交流部長】

私は4月から観光交流部長になり、鹿の子百合に関しましては素人であるので、中野さんには何度か色々教えていただき、本当に感謝している。

先ほどから話に出ているが、鹿の子百合は甌島の数ある観光資源の中でも1つの大きな重要な柱だと思っている。そこでどういうふうを活用できるか、またこれからも色々教えていただいて、ぜひ「鹿の子百合と言えば甌島」というふうにしていかなければいけないと思っている。

1点だけ、最初にご指摘をいただいたのぼり旗を川内駅の周りにとというお話であったが、場所とか本数とか色々制限がかかってくると思うので、少し調べさせていただきたい。それでどういうのぼり旗なのか拝見させていただいて、どこまでできるのか少し調査させていただきたい。

#### 意見

- 1 学校の存続、統廃合の問題であるが、一昨年からよく新聞、テレビ報道等で甌島の学校の統廃合の問題が取り沙汰されている。鹿島町においても、下甌の長浜と統廃合されるということを知っている。我々鹿島町では、学校が無ければ地域の活性化はあり得ないというふうに思っている。その後、鹿島地区コミュニティ協議会で陳情もしたが、その結果もどうなっているか、まだ回答が出てないという状況だと思う。どうかこの統廃合の問題については、小・中学校存続ということで、よろしくご配慮をお願いしたい。
- 2 医療の問題である。医療従事者の問題で鹿島診療所では、医師が1名、看護師が2名、事務職員が2名ということになっている。看護師の2名は1名が薬を作って、1名が看護をするというような状況である。歯科の先生が来ると、その看護師も1人いなくなってしまう。そうすると内科の方は1人で薬を作りながら、1人で看護に専念するというような状況であるため、待ち時間が長く、患者に対して大分迷惑を掛けているというような状況である。また、来年の3月は1名が退職するというような状況であり、どうかこの看護師の確保に努力をしていただきたい。関係部長がお見えになっていないが、どうかよろしくをお願いしたい。

#### 【教育部長】

- 1 学校再編の取り組みとその検討結果がどうなっているかというご確認である。

ご承知のとおり、本市の教育委員会では、中長期的視野に立った学校再編の基本的な考え方、その基本的な考え方に基づく各地域の学校再編の具体的な構想についてまとめ、学校再編の基本方針案というのを策定した。そして策定後、市内の15カ所でその基本方針案の説明会を5月から9月までかけてやってきたところである。様々な説明会の中で御理解・御協力を求めると同時に、地域の皆様方あるいは保護者の皆様方から様々な御意見・御要望を承った。ここ下甌地域でも6月に3カ所で説明会を開催した。そして8月には、鹿島地域の地元の方々から鹿島中と鹿島小の

存続についての御要望・陳情書をお受けしたところである。そういった説明会の開催結果、あるいはこの間色々な市民の方々からいただいたご意見・ご要望等参考にしながら、今現在この学校再編の基本方針案を基本方針として固める検討をしているところである。この下甌・鹿島地域の学校再編に対する具体的な構想案については、今のところ基本方針案どおりで、基本方針を固めることで検討しているところである。と申し上げるのは、学校再編を進めていく地域の小・中学校というのは、非常に地元生が少なくなっている。全然いなくなるか、少人数規模になっている。子どもたちにそういう教育環境を与えていいのかどうか。あるいはもっとある程度の磨き合い、高め合いのできるような学校、より望ましい教育環境を与えるべきではないだろうかということで、教育委員会としてはあくまでも学校再編を進めていくという考え方を出すべきではないかということで今検討しているところである。

ただ、鹿島小につきましては先ほど中野会長さんの方からもご指摘があったとおり、最近かなり地元生が増加傾向にあるということで、鹿島小の取り扱いについては、当面存続し現行通りでやれないかということで、検討の結果としてはそういう方向でまとまりつつある状況である。

学校の基本方針がまとまったら、明けて早々にこの基本方針の説明会を各地域で実施して参りたい。その場で保護者あるいは地域住民の方々に御理解と御協力を求めて参りたいというふうに考えている。そして、地元の方、あるいは保護者の方々の御理解と御協力を得られるならば、得られたところから学校再編に向けての取り組みの組織というものをつくっていただき、その組織の中で具体的な学校再編の取り組みを行っていかうという考え方である。いずれにしても、この学校再編を進めていく場合には、地元の皆様方、あるいは保護者の皆様方の御理解・御協力が無ければ、どうしても取り組むことのできない課題である。従って、教育委員会としては、そういうことで臨みたいというふうに考えている。

まだ今基本方針の策定に向けての検討段階であるので、本日のまちづくり懇話会で地元の皆さんからそういう御意見・御要望が出たということは、その検討の場でも私の方から話をさせていただくということで御理解いただきたい。

#### 【企画政策部長】

2 鹿島診療所の医療事務従事者についての御意見であった。職員の人事配置・職員採用等を含めまして人事管理は総務部長が総括しているが、今日はいにくに出会っていないので、各職場の職員の配置・定数管理については、当企画政策部の方が所管しているので、私の方で承知する範囲で回答させていただきたい。

鹿島診療所の体制について、先ほど中野さんの方から話があったが、私どもも看護師の1人の方が定年退職を迎えられることも十分承知している。毎年各所属課におきまして、課長さん方から人事定数管理のヒアリングをさせていただいており、

そういう情報も受けている。これを受けて、来年度以降の診療所の体制をどうするかということ等、企画政策部と人事当局である総務部と十分協議し、来年の4月採用に向けて、看護師の職種を限定しまして職員採用試験をやっているところである。まだ、最終決定までは至っていないが、進行中である。最終結果については、確定的なことは申し上げられないが、鹿島診療所に限らず甕島全体の離島医療の確保、市民の方々の医療サービスの低下を絶対招かないよう、体制を十分検討して参りたいので、御了解いただきたいと思っている。いずれにしても、企画政策部、総務部で最大限の努力をして参りたい。

#### 意見

航路問題に納得がいかない。

何事でも賛成と反対意見はつきものであるが、この航路に関してははじめから反対の意見は聞き入れられずに、抹殺され続けてきたと思う。今先ほど内川内とか片野浦の道路の件では、危険だということで要望を抹殺されたわけであるが、川内航路も危険である。そういうところへ持って行かれようとしている。私たちが望んでいるのは、安全・安心。これが1番である。安定した航路が、甕島の生命線だと思っている。薩摩川内市が嫌いだとか、市長さんが嫌いとかいうわけではない。また、串木野が大好きだというわけでもない。あそこの地理的な条件がいいわけである。

最後に短く言えば、羽島港というのは、昔旧薩摩士族の勇猛な青年たちが、幕府の目をくぐり抜け、ヨーロッパに留学するときに出港した港である。その時に幕府の目を暗ますために「甕島に行く」という名目で行った。図書館に記念碑もある。くどいようであるが、もう一度航路問題を考えていただきたい。

#### 【市長】

川内航路が安全でないということで反対されてきたということであるが、当然ながら、川内港は重要港湾に指定されている。昔は、なかなか国の方もお金がなくて港の整備にはお金を付けてもらえなかったが、今は重要港湾ということで整備も着々進んでいる。従って、今度新しく造る船は基準があり、バリアフリー等を満たし、最新型の船で、従って、港に入れる船でなければならない。そういった設計基準にあったものを造り、検査を通過しなければならないわけである。先ほども言ったように、甕島商船ができないと言われると市が造らなければ、フェリーだけになってしまう。そうするとますます甕島が取り残されるということになるから、やはり合併した以上は公設民営できちんと市が責任を持ってやらなければならないと思っている。そして料金が高速船は高いわけで、これも安くしなければ需要等が少ない。どんどん乗客が減って赤字を出すばかりである。料金も安くて、早く着かなければならない。そして安全でなければならないというふうに考えている。フェリーは串木野港から1日2便だ

けであるが、今私どもが国の方をお願いしているのは、高速船については川内港から朝・昼・晩の3便出そうと思っている。そうしなければ効果がないと思っているので、国をお願いしているのは3便で、しかも今より安い価格でなんとかできないかという相談をし、もし赤字が出たら、その分は国に補填をしていただくというハードルが高いことをお願いしている。これでぜひ頑張ってみたいと思う。先ほど川内港が安全でないと言われた方が、心配のないように、ちゃんと決まりさえすれば、市が責任を持ってそういうことを解決できるようにしたいと思っている。どうか安全で安心な船を造るので、安心して考え方を改めていただければ、ありがたいと思う。